

「敬老の日に思う」



「敬老の日」が定められた趣旨、それは「年長者を敬い、その長い人生体験から学ぶ」というのだそうです。自分自身が「年長者」の仲間入りをする歳を迎えて思うことは、その趣旨に応えるだけの中身と自覚を持つこと、その趣旨を生かすことの大切さです。

敬老の日にプレゼントをし、ご馳走で気持ちを表すこともうれしいことですが、その食事やお茶の席で、家族の中の年長者から「聴く時間」を設けて見てはどうでしょう。その時、話題にすることは年長者としての祖父母や父、母のことではなく、祖父母や父母に「あなたの祖父母、あなたの父、母から、学んだこと、そして、学んだことはあなたの生き方の中でどう役に立ちましたか」と言うのが良いと思います。そうすれば、受け継ぐべき事柄と同時に、受け継ぎ方まで聴くことが出来る。そこで、聴いた父母がやがて次の世代、子供たちに、孫達へと「敬老の日」の「敬老の仕方」を伝えることが出来ます。

昔は家族と言えば、祖父母、親子、孫まで3世代、4世代が同居したものだけけれど、今は家族と言えば親子だけの核家族、この時代の流れの変化の中で、「敬老の日」のプレゼントと食事に加えて、敬老の日とは年長の家族の話を「聴く時間」を持つ・・・それが我が家の敬老の日・・・この行事に命を吹き込むひと工夫を今年、して見てはいかがでしょうか。



聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。 申命記 6:4 - 7